

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『感しやして給食を食べる事の大切さ』

広島県呉市立阿賀小学校 五年 女子 藤賀 友梨

二時間目が始まるころ、給食室からいいにおいがしてくる。体育館へ向かうと中、給食室の前を通る時はこん立が分かるほどだ。バランスのよい食事を五百五十七人分作ったり、消毒などに気をつけてくださる事はとても大変な事だと思う。私達は給食を作ってくださいる人に感しやしながらおいしく給食を食べている。

毎日給食を楽しみにしているが、一年に一度だけ少し重い気持ちで給食の時間をむかえる日がある。七月一日だ。

私の住む呉市では、「呉空しゅうぎせい者いれい・こう久平和記念の日」である七月一日の給食には、当時の食べ物にいた給食が出される。今年はカンパン、こがたことうパン、すいとん、とうもろこし、牛乳というメニューだった。食べられないものばかりで、へらす人が多い。私もすいとんが苦手だ。

一年生のころの私は、学校の先生のお話をあまり聞かず、ただ、「こんな給食いやだな、いつものおいしいのがいいな。」

と思っていた。学年が上がるにつれ、平和学習の意味を理解し始めてからは当時の給食を色々感じながら食べている。私達と同じ年の子供達が空しゅうにおびえながらすこし、少ない食べ物を大切にしながら食事をしていた事、おいしい食べ物というより、生きるために食べていた事などを、当時と同じような食事をする事で話を聞いたり本を読んだりする平和学習以上に、当時の事を考えるきっかけになる。そうぞうできる。給食が私達に色々な事を教えてくれる。

当時は食べ物が少なかった。今はかんたんに入る。でも食べ物を育てる大変さも私は知っている。

私達五年生は冬のもちつき大会のための稲作りをたん当している。六月に大雨がふった時、イネがたおれ水がたまり、かれそうになったのを心配してクラスの友達とイネのバケツの水をぬいた。私達はイネを見守りながら秋においしいもち米ができるのを楽しみにしているが、中にはかれてしまったイネもあり、全てを上手に育てる大変さを感じている。

トマトやナスなどの野菜を作っているおじいちゃんからは水や肥料をやり、虫や水害から守ったりしながら育てる大変さを教えてもらった。おじいちゃんが育てた野菜は形や大きさも色々で、とてもおいしい。

私達がおいしく食事ができるのは、いっしょうけんめい食べ物を作ってくださいる農家の人々、それを運んでくださる人々、そしてその食べ物を料理してくださる人々という、たくさんの人達のおかげだ。

私は給食を通して歴史や感しやの心などを学び、その心と食生活を大切にできる人になりたいと思っている。